

スマートシティ名護モデル アクションプラン概要版

令和6年3月
沖縄県名護市
一般社団法人名護スマートシティ推進協議会

アクションプラン策定の背景

名護市では、令和5年3月に市のスマートシティ推進の基本計画となるマスタープランを策定。地域への具体的なサービス実装を進めまちに変化をもたらすため、各分野の具体的な課題や解決策などを整理したより詳細の計画が必要である



令和4年度



- 他地域の参考になるようなまちづくりの取組方法であるデジタル技術を活用したまちづくり「スマートシティ名護モデル」の確立を目指し、令和5年3月にマスタープランを策定
- マスタープランでは、名護市のスマートシティ推進のために、理念や方針、施策の方向性を整理

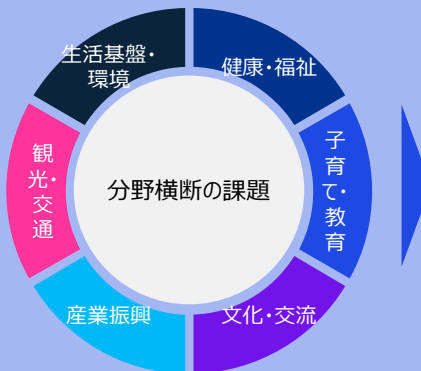
スマートシティ名護モデルの全体像
(マスタープランより)



令和5年度～



- 一方で、市民生活における各分野の課題をより詳細に整理し、地域に求められているサービスの実装を進めていくためには、マスタープランで定めた方向性に基づいて、分野ごとの課題や解決策の調査・分析を行う必要がある



各分野について、名護市特有の状況も踏まえた課題の整理や住民ニーズ等地域に求められている解決策の整理が必要

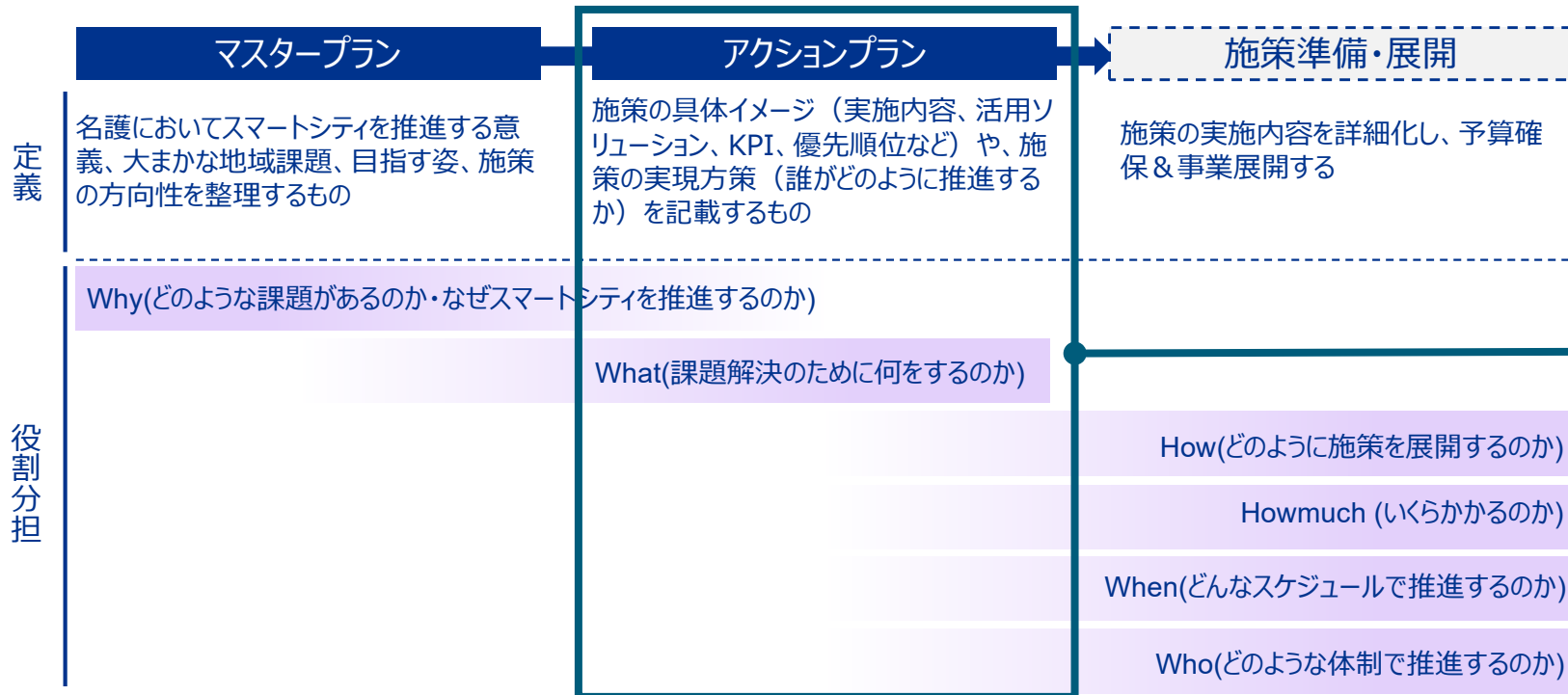
アクションプラン策定の目的

名護におけるスマートシティ推進の基本計画であるマスタープランを受けて、アクションプランはより具体的な施策案や施策の実現方策を整理するものとする。

＜スマートシティ名護モデルの活動フロー＞

- STEP 1 : マスタープランにて、名護においてスマートシティを推進する意義や目指す姿といった上段の情報を把握する
- STEP 2 : アクションプランにて、具体的な活動内容や実現方策を把握する
- STEP 3 : 各プレーヤー（名護市、民間企業等）にて、施策展開にむけた準備 & 施策を推進していく

－ 上記を踏まえた各プランの役割分担 －



アクションプランの策定目的

スマートシティ名護モデル実現に向けた具体的な施策案や実現方策を取りまとめる



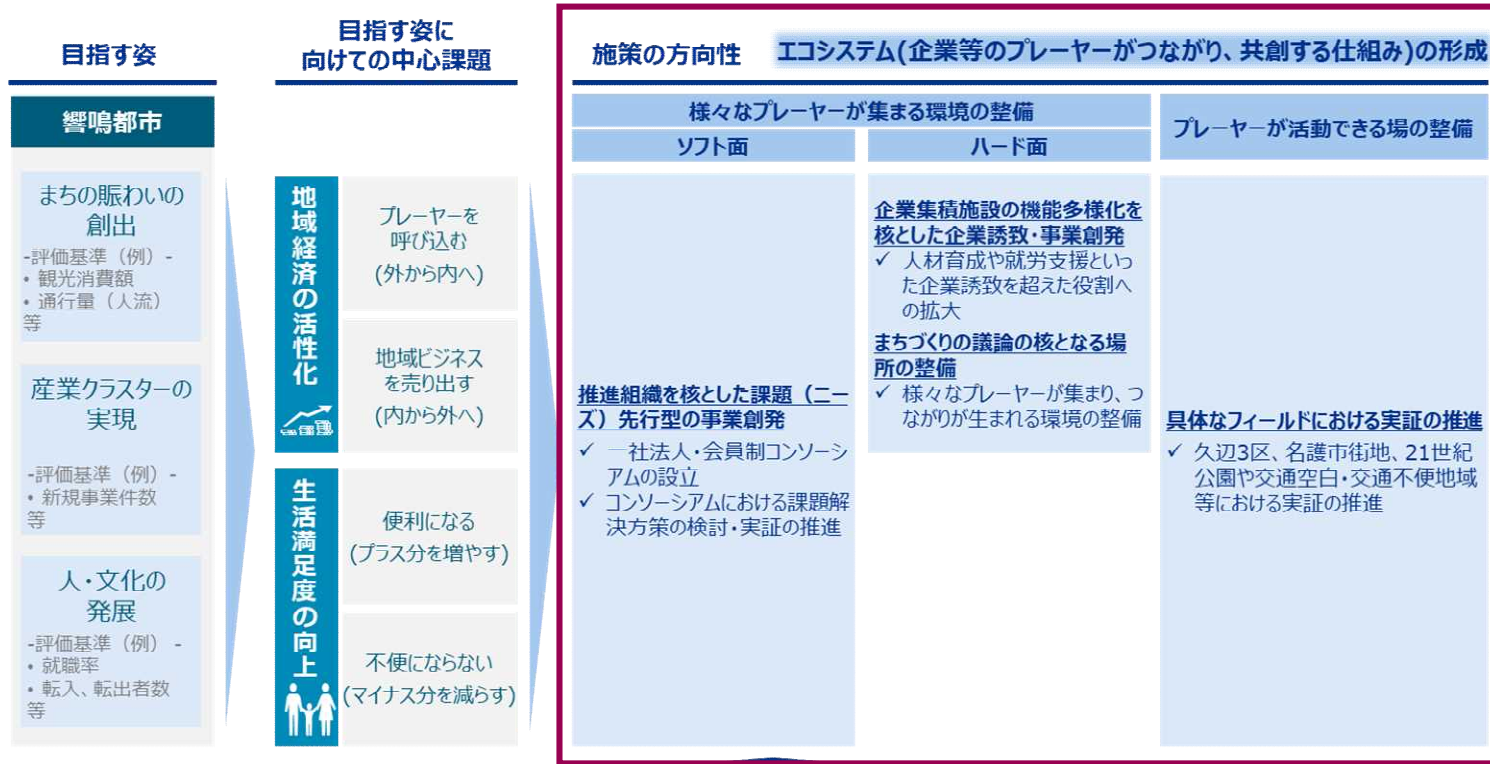
それにより、名護市や民間企業等の各プレーヤーが、具体的なアクションを起こすことができるようにする



マスタープランの基本方針・施策の方向性と本書のスコープ

2023年3月に策定したマスタープランにて整理された「施策の方向性」をより具体化する事を、本書のスコープとする。

マスタープランで定義された基本方針と施策の方向性



アクションプランのスコープ

マスタープランで定義された「施策の方向性」に対する具体施策を検討する

- **推進組織を核とした課題(ニーズ)先行型の事業創発**
 ➢ 名護市の課題に対するデジタル施策案を整理し、実現方策を検討
- **企業集積施設の機能多様化を核とした企業誘致・事業創発**
 ➢ 名護市の企業誘致にかかる課題に対するデジタル関連の施策案を整理し、実現方策を検討(企業誘致に係る詳細は、「経済金融・情報通信業企業誘致実行計画」参照)
- **まちづくりの議論の核となる場所の整備**
 ➢ 施策案の実現方策の中で、民間のイノベーション施設(例:NagoAccelerationGarage)の活用策を検討
- **具体的なフィールドにおける実証の推進**
 ➢ 施策案の実現方策の中で、想定される実証フィールドを検討

基本方針

組織

行政主導ではなく、名護の地域課題を自分事としてとらえる産学官/地元・外部の様々なプレーヤーと連携してまちづくりを推進

場所

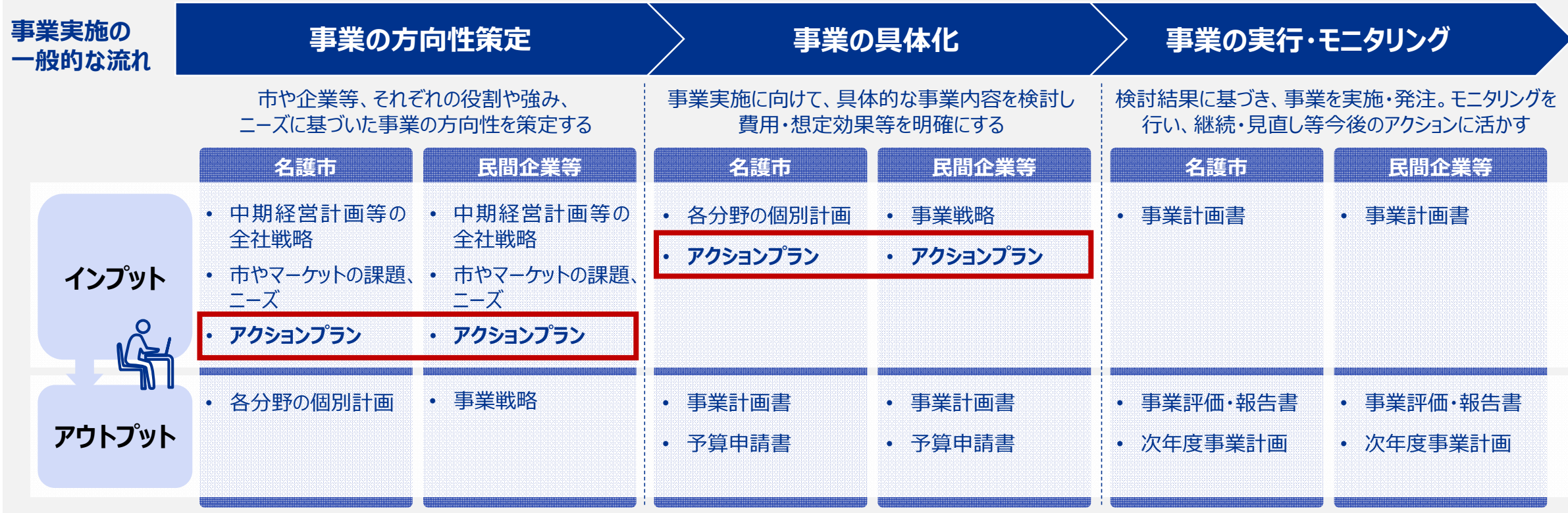
実フィールドにおける市民の声を聞き、課題(ニーズ)先行型のデジタル活用施策を推進

人

未来の名護の発展を担う地域人材の育成・誘引、定着化を促進

アクションプランの使い方

アクションプランで定義した施策は、各プレーヤー（名護市、民間企業等）の取り組みを制限・規定するものではなく、各プレーヤーが今後事業を検討・実行するうえでの参考として使われることを想定している。



アクションプランでは、名護市の課題にもとづき「どのような施策がどのような優先順位で検討・実施されると望ましいか」を記しており、施策一覧に記載しているスケジュールは、施策を実施する時期ではなく、検討を開始すべき時期として整理している。

そのため、本書で挙げる施策は、市や民間企業等が事業検討する際の、課題分析や検証に裏付けられた参考情報として使われることを想定している。

本書の構成

解決を目指すべき名護市の地域課題、並びにそれらに対する解決策（案）を整理する。
その後、各解決策の実現方策（誰がどのように実施すべきか）を定義し、具体的なアクションの推進に資する情報を整理する。

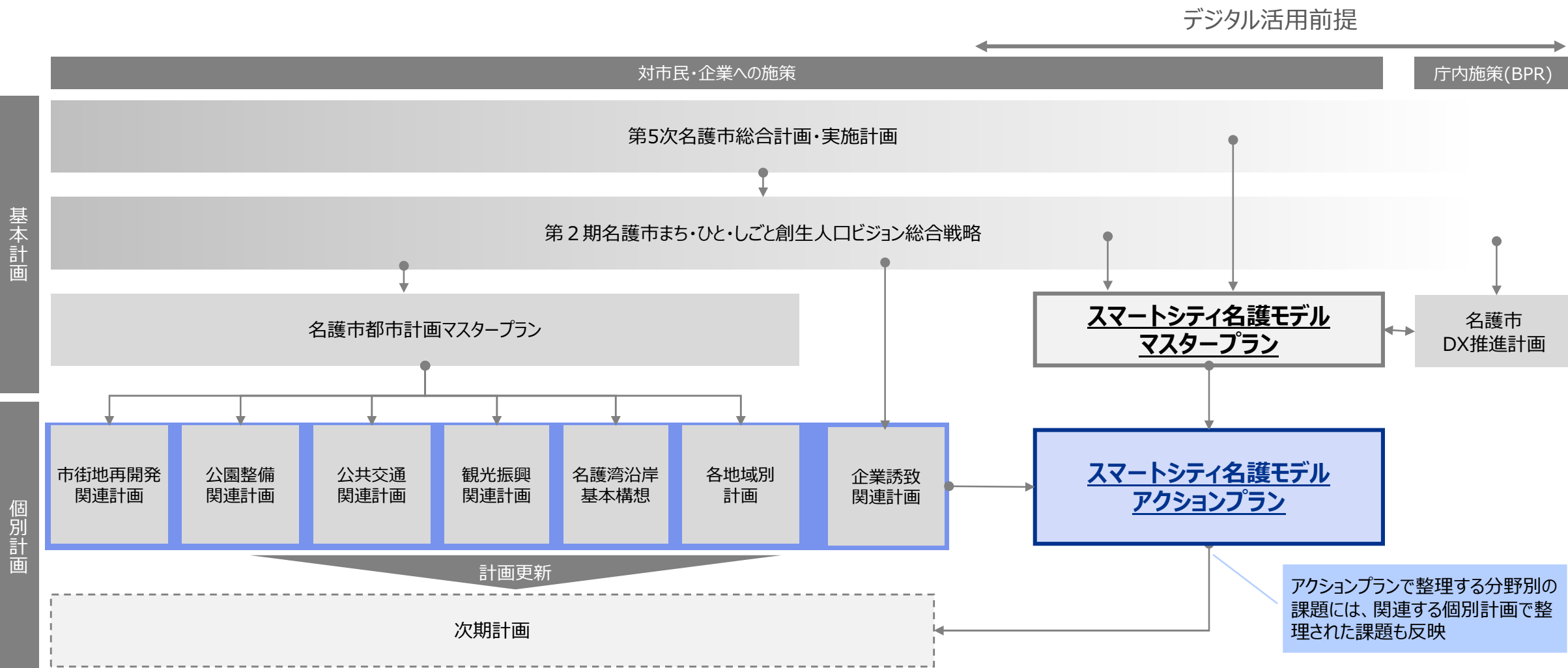
章立て

記載内容

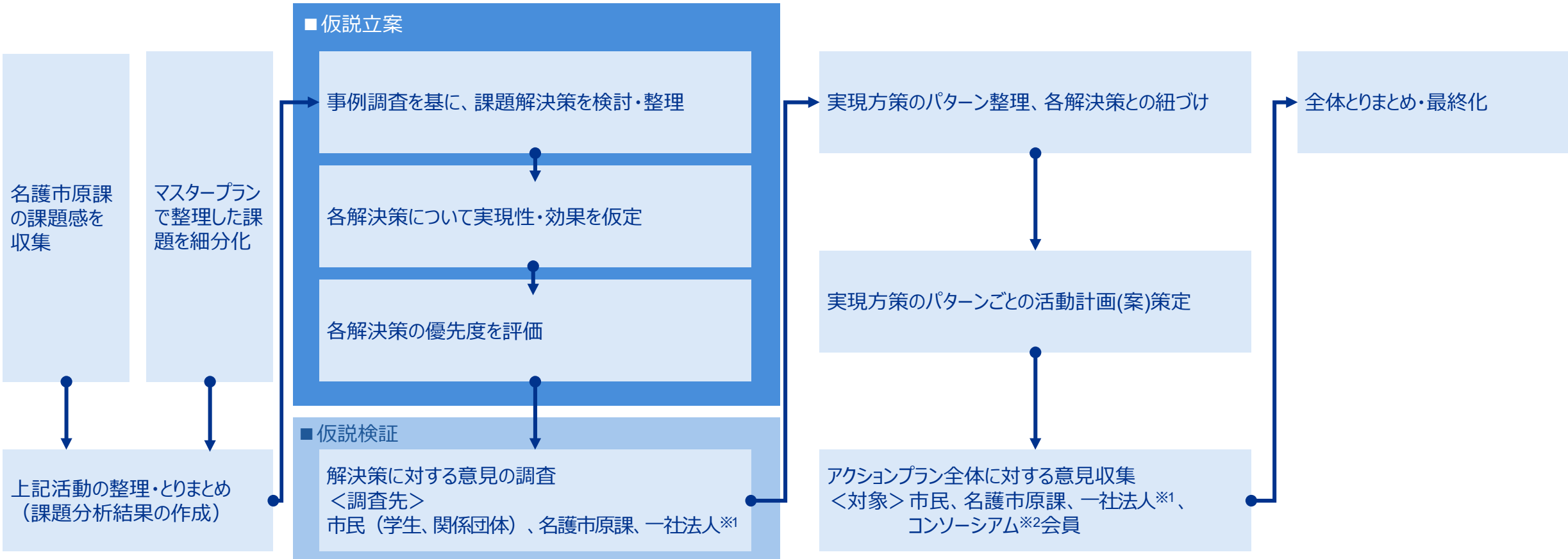
第1章	本書の位置づけ、作成目的 関連計画との関係性等を整理	本書の基礎情報
第2章	解決を目指すべき課題を整理	解決を目指すべき課題
第3章	第1節 活動計画の策定方法を整理	活動計画の策定方法
	第2節 課題に対する解決策（案）を整理	解決を目指すべき課題 + 課題に対する解決策（案） ※想定効果、実現性等の評価含む
	第3節 解決策の実現方策を整理	解決を目指すべき課題 + 課題に対する解決策（案） ※想定効果、実現性等の評価含む + 解決策の実現方策
第4章	推進体制・ロードマップを整理	本書の内容を推進する上での体制・全体ロードマップ

上位・関連計画との関係性

アクションプランは、マスタープランで定められた方向性に則るとともに、個別計画で整理された課題等も考慮し策定。



アクションプラン策定の全体フロー



※1 一般社団法人名護スマートシティ推進協議会
※2 名護スマートシティコンソーシアム

名護市の中心課題

マスタープランでの整理にもとづき、名護市の理想の姿を「まちの賑わいの創出」「産業クラスターの実現」「人・文化の発展」と整理し、現状と理想とのギャップから名護市の中心課題を「地域経済の活性化」「生活満足度の向上」に設定。



個別課題

マスタープランでは、名護市の課題について大まかな整理を行った。本書においては、課題に対する施策案を整理すべく、それらの課題の細分化を実施。

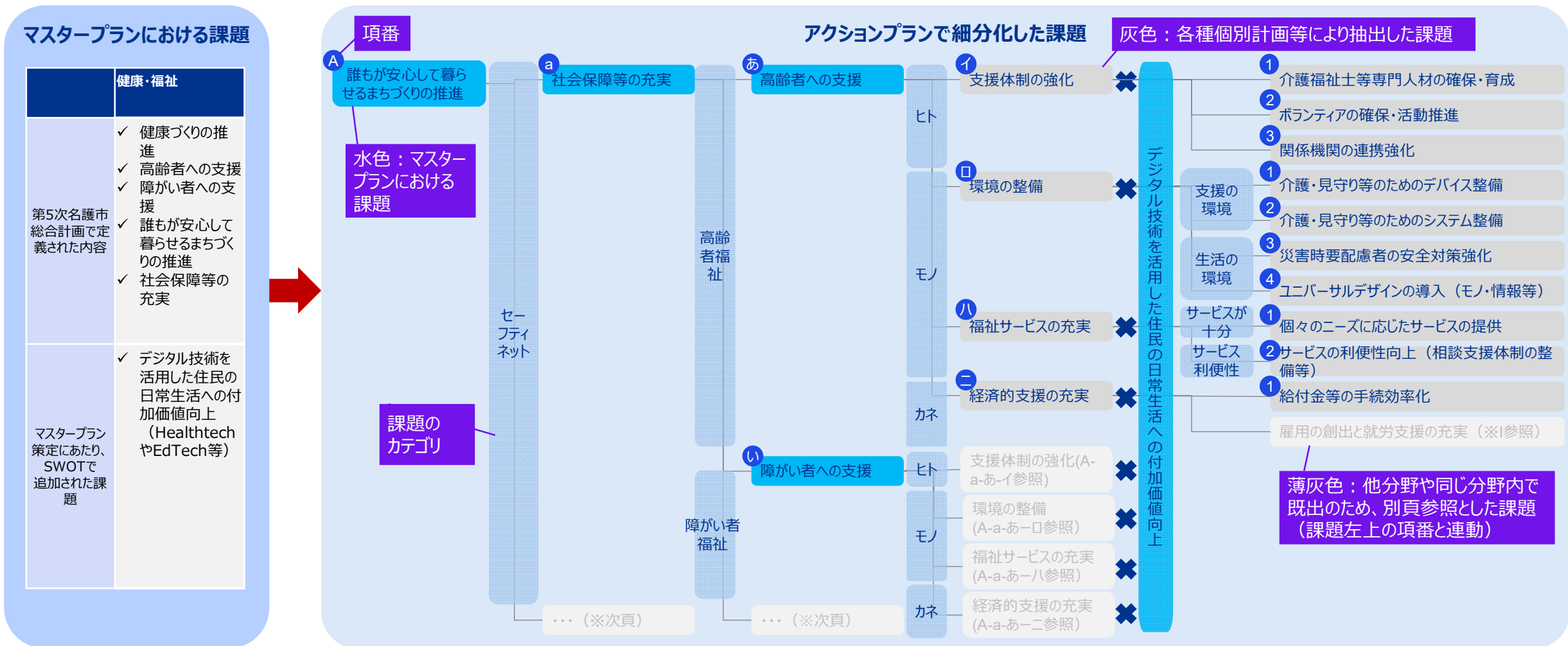
＜マスタープランで定義された名護市の課題＞

-	健康・福祉	子育て・教育	文化・交流	産業振興	観光・交通	生活基盤・生活環境／防災・安全
第5次名護市総合計画で定義された内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 健康づくりの推進 ✓ 高齢者への支援 ✓ 障がい者への支援 ✓ 誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進 ✓ 社会保障等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童・子育て家庭への支援 ✓ 家庭教育と幼児教育の充実 ✓ 青少年の健全育成 ✓ 学校教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社会教育の充実 ✓ 地域コミュニティの活性化 ✓ スポーツ・レクリエーション活動の充実 ✓ 芸術・文化活動の充実 ✓ 交流の推進 ✓ 人権や多様性の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 農業の振興 ✓ 林業・漁業の振興 ✓ 商工業の振興 ✓ 雇用の創出と就労支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 観光の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自然と共生するまち ✓ 道路・交通ネットワークの充実 ✓ 快適な居住環境の整備 ✓ 上・下水道の充実 ✓ 環境にやさしい循環型社会の構築 ✓ 安全・安心なまちづくりの推進 ✓ 防災・救急体制の充実
マスタープランで追加された課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタル技術を活用した住民の日常生活への付加価値向上（HealthtechやEdTech等） 		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 名護の文化の再認識・継承 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 場所に囚われない働き方ができる環境の整備 ✓ 地元で活躍できるIT人材の育成 ✓ 一次産業におけるデジタル技術の活用（スマート農業等） ✓ 若者の雇用の受け皿、雇用の機会の創出 ✓ 企業誘致の仕組みの強化、優位性の見直し ✓ 地域で活躍できる人材育成体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 素通り観光からの脱却 ✓ 移動手段の充実・利便性の向上 ✓ 買物利便性の向上・環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタル技術を活用したインフラ点検の高度化 ✓ デジタル技術を活用した脱炭素施策の拡充
課題解決のために分野横断的に必要な課題	<p>ヒト：課題解決に向け、様々なプレイヤーを巻き込み取組みを推進する組織の整備</p> <p>モノ：各分野のデータを統合的に管理するデータ分析基盤の整備</p> <p>カネ：行政の財源だけに依存しない資金調達の仕組みの確立</p> <p>コト：市民・地場企業が名護のまちづくりを自分事としてとらえる機会の創出</p>					

総合計画や各分野の個別計画等を参照し、各課題をロジックツリー状に細分化（次頁参照）

個別課題の整理

分野別の個別課題については、マスタープランで定義された課題をさらに細分化し、分野別の各種個別計画の中で整理された課題の要素も取り入れながらロジックツリーを整理。



課題解決策案の一覧 (ロングリスト)



総合計画上の分野

課題

施策の方向性

具体的なデジタル施策

No	分野	課題					施策の方向性	具体的なデジタル施策
		Lv.1	Lv.2	Lv.3	Lv.4	Lv.5		
1	健康・福祉	誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進	社会保障等の充実	高齢者への支援	支援体制の強化	介護福祉士等専門人材の確保・育成	VR等のデジタル技術を活用した実習コンテンツの導入	VR等のデジタル技術を活用した実習コンテンツを導入することにより、実習に必要な機械や場所などの制約を受けない仮想空間で十分な実習時間を確保し、福祉人材のスキルアップを図る。

No	分野	実現方策 (想定)		成果指標案			プレイヤー		
		官主導	民主導	Output	中間Outcome	最終Outcome	実施主体	パートナー	ターゲット
2	健康・福祉			コンテンツの数	実習コンテンツ	安全な暮らし	福祉人材を養成する学校等 民間事業者 (福祉系企業)	民間企業	福祉人材

実現方策

成果指標案

プレイヤー

実現性	社会への実装具合 (技術の成熟度)				効果	評価 (優先度)		
	社会受容性 (市民)	社会受容性 (既存事業者)	コスト	効果を感じる人の多さ		アウトカムへの影響度	優先度	点数
◎	◎	◎	◎	● VR機器・専用システムの導入が必要	◎	習得できるスキルは	高	
◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲ 地域クーポン等がボランティア	高	30

実現性

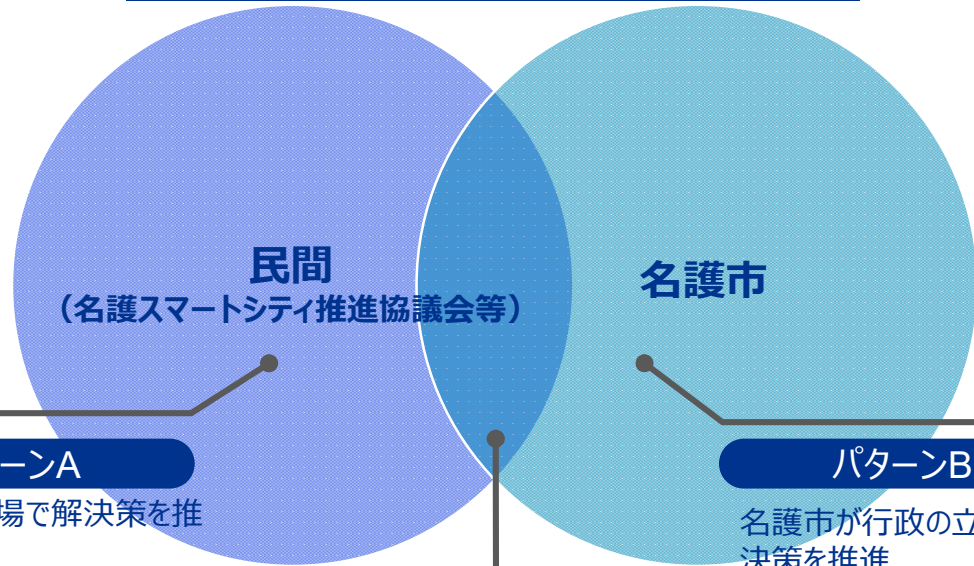
効果

評価 (優先度)

実現方策のパターンと考え方

ロングリストとして整理した課題解決策（案）について、どの主体が主導して実施していくかを整理。
 基本的には、以下の3パターンに集約される。

<具体施策の実施主体の想定パターン>



パターンA
 民間の立場で解決策を推進

パターンB
 名護市が行政の立場で解決策を推進

パターンC
 コンソーシアムのメンバと名護市の官民連携で解決策を推進

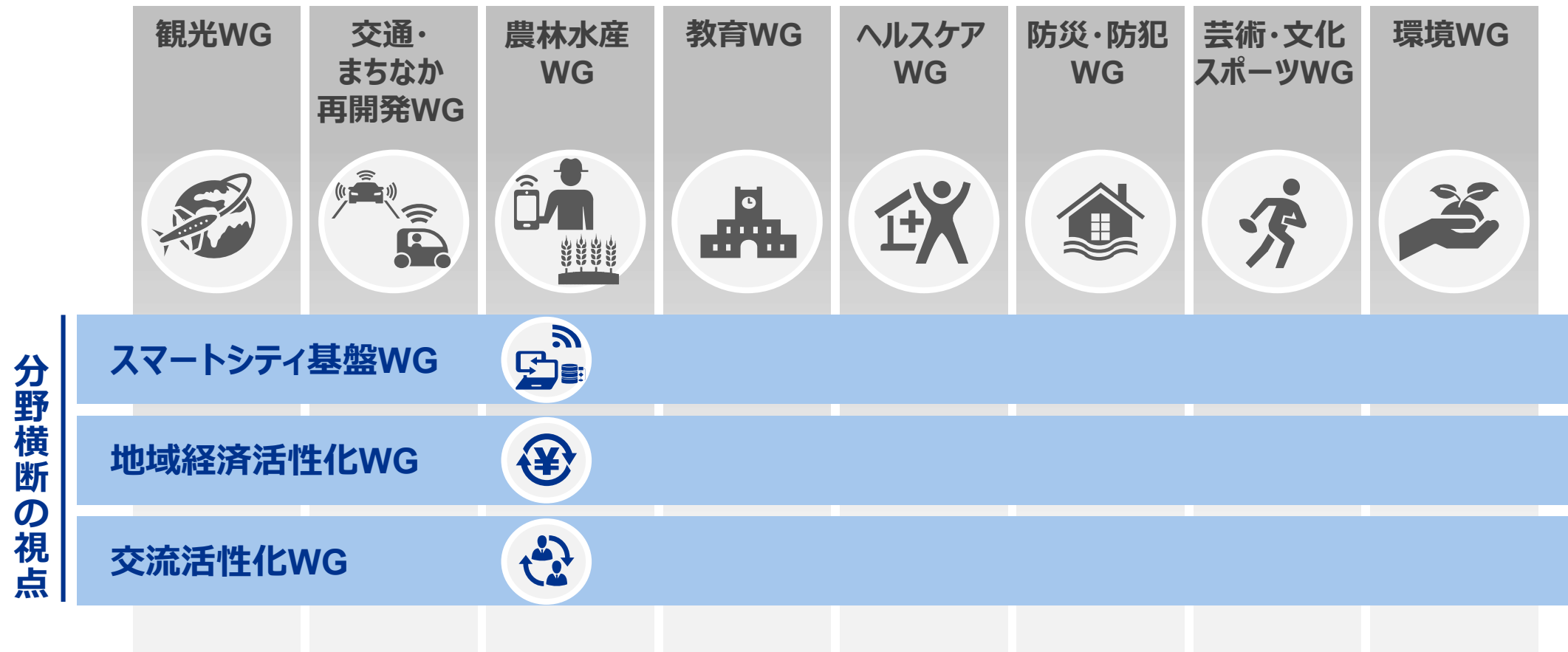
－ 実施主体の基本的な考え方（一例） －

		新規性：高	
競争領域	<p>■パターンA：民主導 サービス側（アプリ側）としてビジネス性を見込めるものは、民間サービスとしての実現を目指す</p> <p>例) AIによる個人に則したケアプラン作成サービス実証</p>	協調領域	<p>■パターンC：官民連携 実験的要素が高い施策／行政のASETを活用する施策は、官民の持ち出しによる共同研究的な位置づけとし、実装形態を検討する</p> <p>例) 自動運転バス実証 ドローンでのインフラ点検実証</p>
	<p>■パターンB：官主導 市民の活動や民間企業の活動を下支えする基盤側（インフラ側）の取り組みは、ビジネス性が見込めなくても行政サービスとしての実現を目指す</p> <p>例) Maasアプリ実証 バスロケーションサービス実証</p>		<p>■パターンB：官主導 市民の活動や民間企業の活動を下支えする基盤側（インフラ側）の取り組みは、ビジネス性が見込めなくても行政サービスとしての実現を目指す</p> <p>例) 生産者(農家等)と消費者のマッチングPF構築 行政への意見投稿PF構築</p>
		新規性：低	

想定されるワーキンググループ（WG）体系

ロングリストの内容を基に、名護スマートシティコンソーシアムにて組織すべきワーキンググループ（以下：WGという）の体系は以下の通り。WG体系については今後も柔軟に更新していく。

分野カットの視点



実現方策ごとのアクションプラン

ロングリストを実現方策によって官主導／民主導の施策に振り分け、それぞれのアクションプランを作成。
 さらに、民主導のアクションプランについては、施策ごとに想定WGを設定し、WGごとのアクションプランとして整理

<ロングリスト>

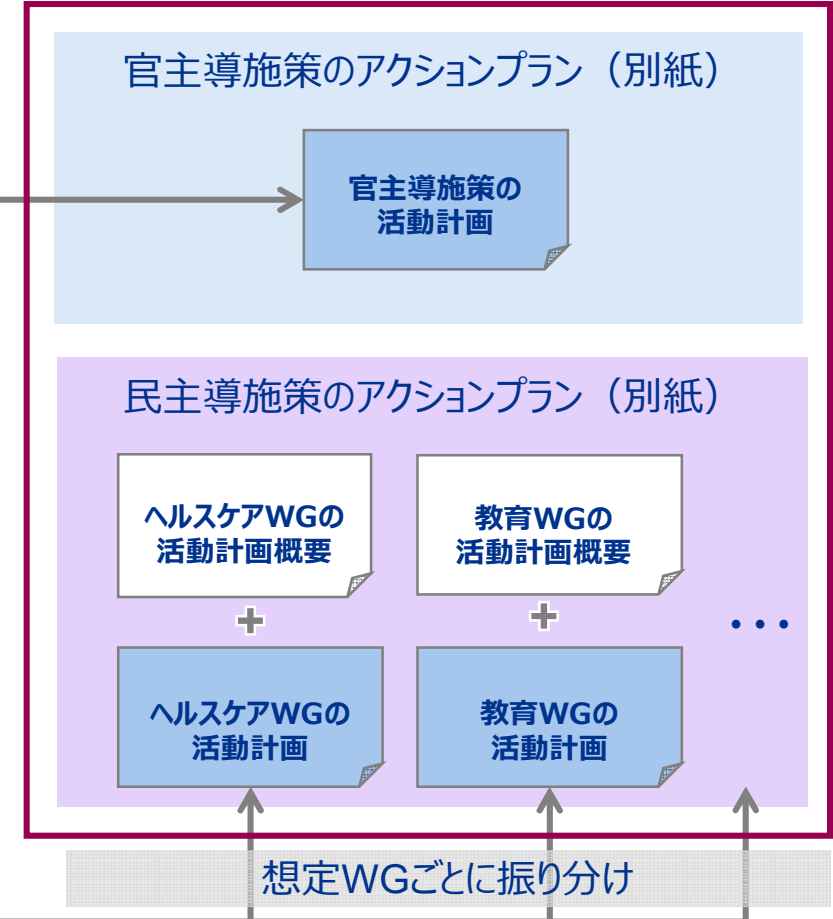
分野	課題	施策の方向性
健康・福祉	誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進 … 介護福祉士等専門人材の確保育成	VR等のデジタル技術を活用した実習コンテンツの導入
健康・福祉	誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進	行政データやスマートシティにかかる民間データの連携基盤整備

具体的なデジタル施策	実現方策	
	官主導	民主導
VR等のデジタル技術を活用した実習コンテンツを導入することにより、実習に必要な機械や場所などの制約を受けない仮想空間で十分な実習時間を確保し、福祉人材のスキルアップを図る。	●	
従来の行政サービスで蓄積したデータや、スマートシティの推進により新たに蓄積されるデータを有効活用するためのデータを連携する基盤整備を行う。(例：行政・医療機関・福祉事業者等が住民の健康状態や医療情報を一元管理するためのデータ連携基盤を構築し、関係機関の連携強化を図る等)		●

官主導の施策を抽出

民主導の施策を抽出

別紙はコンソーシアム※会員にのみ限定公開



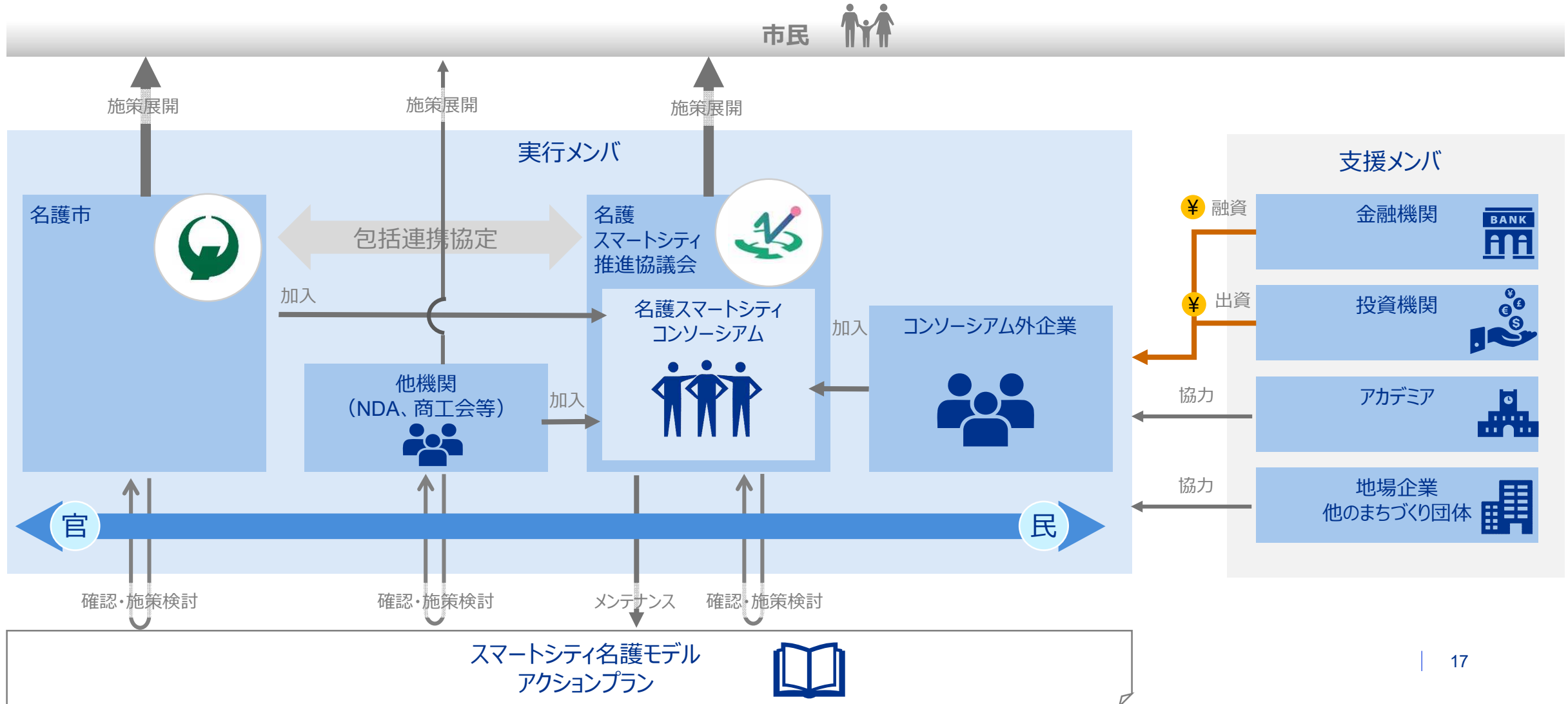
本書の活用イメージ



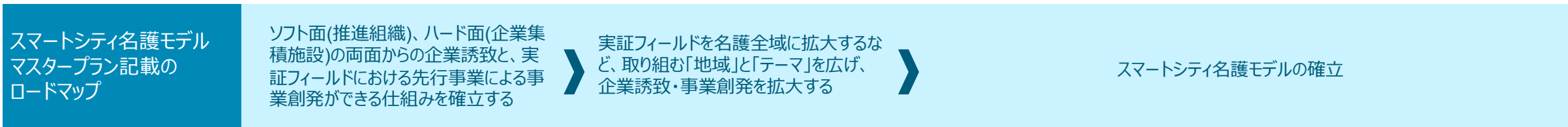
ロードマップ・体制

アクションプランの検討・実行体制

名護市と名護スマートシティ推進協議会をメインとしつつも、商工会等の他機関も含めて官民連携の体制で実行する。その一方で、資金面や学術的知見の面を担うプレイヤーとして、金融機関やアカデミア等の支援メンバーとの関係も構築していく。



アクションプランのロードマップ



	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
マイルストーン		スマートシティ名護モデルの特徴の明文化▼	他地域での実践例の確立▼	
実施体制の構築・推進	主な後発WGの立ち上げ完了▼	優先度【高】の施策を中心に検討・推進（先行WGの活動が中心）	支援メンバとの調整完了▼	優先度【中】以下の施策の実施是非検討・必要な施策の推進
支援体制の構築・推進	後発WGの立ち上げ	後発WGの活動推進	支援体制の確立	
スマートシティ名護モデルの確立・展開	支援メンバの検討	金融機関・投資機関との調整 アカデミア、その他機関との調整	スマートシティ名護モデルの特徴整理・明文化 情報発信	沖縄県北部地域への横展開